

令和4年度事業計画書

(令和4年2月1日から令和5年1月31日まで)

①会員の研究発表会，学術講演会等の開催（定款第4条第1号）

- ・第122回日本外科学会定期学術集会をハイブリッド形式で，下記のとおり行う．

日時 令和4年4月14日～16日

場所 熊本城ホール（熊本市）

参加予定者数 15,000名 演題予定数 3,000題

テーマ「外科学の未来を拓く-The Future of Surgery-」

- ・学術集会の在り方を検討する．
- ・「日本外科学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針」の本格的な運用を開始する．

②機関誌，論文図書等の刊行（定款第4条第2号）

- ・学会誌「日本外科学会雑誌」を下記のとおり発行する（通常号は電子ジャーナルとして発行し，希望により配本する）．

発行年月日	巻	号	発行部数
令和4年 3月1日	123	2	9,500
令和4年 5月1日	123	3	9,500
令和4年 7月1日	123	4	9,500
令和4年 9月1日	123	5	9,500
令和4年11月1日	123	6	9,500
令和5年 1月1日	123	1	9,500

- ・日本外科学会雑誌の過去分のアーカイブ化を進める．
- ・Official Journal「Surgery Today」およびオンライン・ファーストを下記のとおり発行する．

発行年月日	巻	号	発行部数（電子ジャーナル発行分含む）
令和4年 2月1日	52	2	40,000
令和4年 3月1日	52	3	40,000
令和4年 4月1日	52	4	40,000
令和4年 5月1日	52	5	40,000
令和4年 6月1日	52	6	40,000
令和4年 7月1日	52	7	40,000
令和4年 8月1日	52	8	40,000
令和4年 9月1日	52	9	40,000
令和4年10月1日	52	10	40,000
令和4年11月1日	52	11	40,000
令和4年12月1日	52	12	40,000
令和5年 1月1日	53	1	40,000

- ・Case Report 誌「Surgical Case Reports」を下記のとおり電子ジャーナルとして発行する．

発行年月日	巻
令和4年 2月1日	8

令和4年 3月1日	8
令和4年 4月1日	8
令和4年 5月1日	8
令和4年 6月1日	8
令和4年 7月1日	8
令和4年 8月1日	8
令和4年 9月1日	8
令和4年10月1日	8
令和4年11月1日	8
令和4年12月1日	8
令和5年 1月1日	9

- ・ 外科専門医予備試験の過去問題集を書籍化し、発刊する。

③内外の関係学術団体との連絡及び提携（定款第4条第3号）

- ・ German Surgical Society (GSS), American College of Surgeons (ACS), Society of University Surgeons (SUS), College of Surgeons of East, Central and Southern Africa (COSECSA), The Association of Surgeons of India (ASI) などと持続可能な学術交流を行い、若手外科医の交換発表などを行う。
- ・ 新たに Kosova College of Surgeons (KCS) との交流を検討する。
- ・ Royal College of Surgeons England (RCS) と International Surgical Training Programme (ISTP) の partner Institution について再協議する。
- ・ 日本医学会、日本医学会連合、日本医療機能評価機構、日本女性外科医会の活動に積極的に参画する。
- ・ 外科系 18 学会と外科関連学会協議会を組織して、外科系の横断的な諸問題を協働で検討する。

④外科学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

- ・ 標準手術ビデオを 5 本作成して、ビデオライブラリーに収載する。
大木 隆生（東京慈恵会医科大学）
平松 昌子（高槻赤十字病院）
鈴木 眞一（福島県立医科大学）
中村 雅史（九州大学）
土田 正則（新潟大学）
- ・ 「外科臨床研究の利益相反に関する指針」に基づき、該当者から利益相反自己申告書を回収する。

⑤外科専門医の育成と専門医制度の運用（定款第4条第5号）

- ・ 日本専門医機構と協働して、「外科領域専門研修プログラム」を審査し、専攻医の研修登録を行い、専攻医の研修状況を管理すると共に、そのための Web システムの改修を行う。
- ・ 日本専門医機構と協働して、専門医共通講習および外科領域講習を開催する（E-learning を含む）と共に、関連学会が開催する専門医共通講習および外科領域講習について審査を行う。
- ・ 日本専門医機構と協議の上で、外科専門医の更新の要件を外科系サブスペシャルティ学会と共に検討して、外科専門医の更新のための Web システムを構築する。

- ・ 外科専門医制度に則り、外科専門医を認定し、指導医を選定し、認定登録医を登録し、指定施設と関連施設を指定する。
- ・ 外科専門医予備試験（筆記試験）を CBT 方式で実施し、外科専門医認定試験を書類審査によって実施する。
- ・ 外傷講習会を E-learning で配信し、また、日本外傷診療研究機構、日本 Acute Care Surgery 学会、日本腹部救急医学会、日本外傷学会などの協力を得て、専攻医の外傷の修練を強化する。

⑥研究の奨励と優秀な業績の表彰（定款第 4 条第 6 号）

- ・ 臨床研究セミナーを E-learning で配信する。
- ・ Surgery Today と Surgical Case Reports のそれぞれの優秀論文賞を表彰する（各 5 名）。
- ・ Surgery Today の Best Citation Award を表彰する（5 名）。
- ・ Surgery Today と Surgical Case Reports のそれぞれの Best Reviewer Award を表彰する（各 5 名）。
- ・ 第 122 回定期学術集会のビデオ演題のうち、優秀な演題をビデオライブラリーに収載して、制作補助費を支給する。
- ・ 「日本外科学会臨床研究助成」（JSS Clinical Investigation Project Award）の補助金を支給する（1 名）。
- ・ 「若手外科医のための臨床研究助成」（JSS Young Researcher Award）の補助金を支給する（5 名）。
- ・ National Clinical Database（NCD）を活用した臨床研究の助成を検討すると共に、複数領域に跨る NCD データを利活用した臨床研究を行う場合の調整窓口を務める。

⑦生涯学習活動の推進（定款第 4 条第 7 号）

- ・ 旧来の「卒後教育セミナー」と「生涯教育セミナー」を統合した「教育セミナー」を、E-learning で配信する。
- ・ E-learning システムの見直しを行う。

⑧外科診療に関する情報や指針の提供（定款第 4 条第 8 号）

- ・ National Clinical Database（NCD）に参加し、外科症例登録のデータベース事業に協力する。
- ・ 「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン（Guidelines for Cadaver Dissection in Education and Research of Clinical Medicine）」に基づく Cadaver Surgical Training（CST）の普及を図る。
- ・ AMED の委託を受け、引き続き「手術支援ロボットを用いた遠隔手術のガイドライン策定に向けた実証研究」を行い、「遠隔手術ガイドライン」を作成する。
- ・ 日本医学会連合と協働して、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策を検討する。

⑨国民に対する外科医療の情報提供の啓発（定款第 4 条第 9 号）

- ・ 広報活動として、第 48 回市民講座の動画配信を行う。

日時 令和 4 年 4 月中

テーマ「がん治療の未来を拓く～がん治療の最前線を丁寧に説明します～」

⑩医療政策に関する建議（定款第 4 条第 10 号）

- ・ 外科系学会社会保険委員会連合（外保連）に参加し，外科技術料に関する適正な診療報酬についての調査収集と，その結果を元にした関係官庁などへの要望書提出に協力する。
- ・ 「医療事故調査・支援センター」（日本医療安全調査機構）の支援団体として，死因の調査分析事業に協力する。
- ・ 「学会認定・臨床輸血看護師制度協議会」に協力する。
- ・ 「特定行為に係る看護師の研修制度」を支援し，外科医の労働環境の改善に向けたタスクシフトの普及を図ると共に，厚生労働省による集中的技能水準（C-2 水準）にかかるモデル審査に協力する。
- ・ 外科医の適正数について検討し，外科医へのインセンティブの付与などを関係官庁に要望する。
- ・ 外科医の無過失補償制度について検討する。

⑪その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第 4 条第 11 号）

- ・ 役員の選任を行う。
- ・ 会員制度を見直すと共に，会員管理システムの見直しも行う。
- ・ 財務の健全化に向けた検討を行う。